



子どもの思いやり

校長 庄山 佳代子

4月に入ってから空気の冷たい日が続いています。入学間もない1年生も上級生に混じってけなげに登校してくる姿に、ほほえましさと安堵を感じています。

新学期がスタートしてまだ2週間です。学校生活のいろいろな場面で河崎小学校の子どもたちの優しさを少しずつ発見しています。

登校時、ほとんどの登校班が学校に到着しただろうと思っていたところへ、最後の班が入ってきました。少し遅れて到着した様子だったので声を掛けました。

「おはよう。今、学校に着いたんだね。」すると、6年生が答えました。

「はい。1年生がいるから……。」

つまり、その班の子どもたちは、1年生の歩く速さに合わせて歩みを進めていたので、時間がかかってしまったと言いたかったのです。

別の班では、1年生の手を引いて登校する子どもがいました。次の日も、次の日も手を引いて来ました。いつまで続くか分かりませんが、1年生がもういいよと言うまで手を引いてきてくれるのだろうと思って見えています。

1年生を迎える会でのことです。ゲームで「じゃんけん列車」を全校で行いました。歌を歌いながら移動し、歌い終わったところで出会った人とじゃんけんぽん、負けたら勝った人の後ろにつながります。何回かじゃんけんを繰り返すと最後には全校で1列になります。1年生から6年生まで楽しく「じゃんけん列車」を進め、最後のじゃんけんは3人で行いました。児童委員会のある子がぽつりと言いました。



「最後まで残ったのは、3人とも6年生だな。もう少し、1年生に優しくすれば良かったかな。」

つまり、その子は、もっと1年生をじゃんけんに勝たせたかった、1年生を最後まで残したかったと考えたのです。「1年生を迎える会」だからこそ、1年生を活躍させてやりたかったと考えたのだと思います。

小さな出来事ですが、子どもたちの優しさがあふれていると私は感じました。そんな優しさを、一人一人の思いやりを認めて大事にしていきたいです。